「教育のつどい 2018」アピール

憲法をいかし、平和を守り真実をつらぬく教育と社会を

「教育のつどい 2018」は、8 月 17 日からの 3 日間、長野県長野市で開催され、のべ約４２００人の父母・保護者、市民、教職員の皆さんの参加を得て大きく成功し、本日終了しました。全国から参加された皆さん、「つどい」成功のために奮闘していただいた要員や現地実行委員会の皆さん、開会全体集会会場となった長野ホクト文化ホールや各フォーラム・分科会会場に関わる皆さんをはじめ、すべての関係者の方々のご協力とご尽力に心から感謝と敬意を表します。

憲法・平和・教育を語り合った「教育のつどい 2018」

「教育のつどい 2018」は、憲法を守りいかすのか、憲法を改悪して日本を「戦争する国」へとつくり変えるのかが、鋭く問われる情勢のもとで開催されました。政権の腐敗とモラル・ハザードが次々と明らかになったにもかかわらず、安倍首相は改憲への執念を持ち、次期国会への改憲案の提出をねらっています。憲法をいかし、平和を守り真実をつらぬく教育と社会をどうつくりあげるのかが問われる中で、子どもたちのありのままから出発し、一人ひとりの成長・発達を保障する教育の大切さが確認された集会となりました。

「明日望みてこの地につどい」と歌う善光寺木遣りで始まった開会全体集会には、１２００人がつどいました。「『憲法改正』が教育をこわす～ジャーナリズムの視点から」とのテーマで行われた青木理さんの講演では、森友・加計問題やメディアと教育への政治介入、安倍政権がねらう改憲等について縦横に語るとともに、「自分たちの手で民主主義をつくることが大切」と若者へのメッセージを送っていただきました。

「ナガノ－歩んできた道、歩んでいく道－仲間とともに」と題した現地企画では、「２・４事件（教員赤化事件)」「満蒙開拓青少年義勇軍」などの歴史から、平和教育をすすめてきた豊かなとりくみが、高校生の朗読によって「こわれそうになっても　こわしてはいけない　私たちの憲法」と謳いあげられました。戦争体験を聴き取り、歌い語り継ぐ清水まなぶさんの歌声から、「こわしてはいけない」ものを守る勇気を得ました。

7 つの教育フォーラムは、高校生や大学生の報告も得て、父母・保護者、市民、教職員、教育関係者が一緒になって、子どものことや教育と社会について語り合いました。立場を超えてつどい、様々な教育課題について語り合ったことは、子育て・教育にかかわる、ゆたかな学びとなりました。

30 の分科会では、多くの若い世代のレポート報告が行われ、その一つひとつが、これまで積み上げられてきた民主教育の理論と実践とともに討論し交流されました。子どもの声を聴くこと、子どものありのままから語ることの大切さとともに、これまで積み上げられてきた教育研究活動の成果と実践を語り合い、その経験を共有することの大切さが確認されました。特定の指導方法・評価方法が押しつけられ、「〇〇スタンダード」などが強制されているもと、教育の自由と自主的で豊かな教育研究活動にもとづく専門性が重要となっています。また、父母・保護者、市民、教職員がともに参加と共同の学校づくり・教育課程づくりをすすめる重要性があらためて確認されました。

子どもたちに豊かな教育と平和な未来を求めるすべてのみなさん

「生産性」を基準に人の価値やあり様を決めつける言動は、個人の尊厳を踏みにじり、ひいては民主主義社会を否定するものであり、許されるものではありません。憲法の平和主義や人権尊重の理念は全国の若い世代に引き継がれています。憲法をこわすのでなく教育にいかし、安倍改憲を許さないとりくみをともにすすめましょう。

そして、子ども、父母・保護者、市民、教職員の共同で、憲法と子どもの権利条約がいきて輝く教育と社会を確立しましょう。

2018 年 8 月 19 日　「みんなで 21 世紀の未来をひらく教育のつどい　教育研究全国集会 2018」実行委員会